

任意保険の組み立て・・・誰を守るのかで分ける

6つの部品を「相手を守るもの」と「自分を守るもの」に分けました。削っていいものと、絶対に削ってはいけないものがはっきりします。

補償の名称や範囲は保険会社・商品で異なります。必ず約款と証券でご確認ください。

相手を守るもの			ここは絶対に削らない
対人賠償	相手のけが・死亡。金額は自分の都合では決まらない。相手が働き盛りなら賠償は非常に高額になりうる	無制限に	
対物賠償	相手の車、建物、店舗、信号や線路など。高額になった例が現実にある	無制限に	
上限を設けても、無制限との保険料の差は思ったほど大きくありません。上限を超えた分は自分の財産から払うことになります。ここは迷わず無制限を。			

自分と同乗者を守るもの			状況に応じて選ぶ
人身傷害	自分と同乗者のけが。過失の割合に関係なく、治療費や収入の補償が受けられる	入りたい	
搭乗者傷害	乗っている人のけがに、決まった金額を支払う形。人身傷害と役割が重なる部分がある	重複に注意	
車両保険	自分の車の修理代。付けるかどうかは判断が分かれる（下の判断表へ）	条件しだい	
特約	弁護士費用、レンタカー、ロードサービスなど。使う場面を想像して選ぶ	選んで付ける	

自賠償保険（加入が義務）でまかなえるのは、相手のけが・死亡の一部だけです。相手の車の修理も、壊した建物も、自分の車も、自分のけがも対象外。「保険には入っている」と思っている、それは任意保険とは別物です。

車両保険を付けるか、外すか

ローンが残っている	付ける。車がなくなっても支払いは続きます
新しい／高価な車	付ける。修理代も買い直しの金額も大きい
運転に慣れていない	付ける。最初の数年は事故の可能性が高い
雪や災害のリスク	付ける。自分の過失によらない損害も起きる
車の価値が下がった	外す判断もありうる
買い直せる貯蓄がある	外す判断もありうる

判断のしかた・・・「車両保険の年間保険料 × 乗る年数」と「その車の価値」を比べる。前者が後者を超えるなら、外す判断にも合理性があります。ただしローンが残っている間は別です。

等級の仕組みと、保険を使うかの判断

1年間 無事故	等級が1つ上がる。割引が大きくなる
事故で保険を使った	種類により3つ下がる、または1つ下がる
下がったあと	数年間、割引が小さい状態が続く
18歳・19歳の保険料	統計上、若い年齢層の事故の割合が高いため高くなる。個人が責められている話ではなく、仕組みの話

小さな傷で保険を使うべきか・・・使うと数年間、保険料が高い状態が続きます。修理代より、その後に増える保険料の合計のほうが大きくなる場合があります。事故のとき、保険会社に「使った場合と使わなかった場合の差額」を聞いてください。教えてもらえます。

🏆 この1枚で覚えること

対人賠償と対物賠償は無制限。ここを削って浮かせるお金は、もしものときに払えない金額に化けます。保険料を抑えたいなら、別の項目で調整してください。

💡 若い人が保険料を抑える方法

家族の契約に運転者の範囲を広げる形、親の等級を引き継げる制度など、条件が合えば使える方法があります。保険会社に相談してみてください。そして最大の節約は、無事故を続けることです。

⚠️ 自動更新の前に一度見る

毎年届く更新の案内を、そのまま通していませんか。車を替えた、運転する人が変わった、走行距離が減った。状況が変われば、必要な補償も保険料も変わります。